

平成26年度（2014年度）施政方針

三 島 市

平成26年度当初予算案の提案にあたり、その大要を御説明申し上げますとともに、所信の一端を申し述べたいと存じます。

まずはじめに、平成26年度は私にとりまして任期4年目の節目の年となります。

この間、私は、三島市が発展し元気になり、市民の皆様が「三島で生まれて良かった」、「三島で育って良かった」、「三島で暮らして良かった」と、「幸せ」を実感できる、誇れるまち三島を創りあげたいとの強い思いで市政に取り組んでまいりました。

また、三つの三島は、「美しい美島、魅力ある魅島、味わいある味島」と考え、施策の基本方針に「ガーデンシティみしま(庭園都市みしま)」、「スマートウエルネスみしま(健幸都市みしま)」を掲げ、全国に誇れる富士山から贈り届けられる湧水と緑、歴史・文化という三島の財産を最大限に活用し、市民との協働による、にぎわいと美しく品格があり、市民もまちも産業も全てが元気で健幸な都市の実現を目指してまいりました。

さらに、このような取り組みを余すことなく全国に発信していくことが重要と考え、各種メディアやインターネットなどの情報提供ツールを総動員する中でリアルタイムな発信に努めてまいりました。

その成果としまして、三島市の知名度を全国に押し上げる事ができつつあると感じており、市・内外の多くの方々から、「三島が明るくなった」、「きれいになった」、「元気がありますね」など、お褒めの言葉や励ましの言葉を数多く頂戴するようになったり、「テレビで三島市のことをやっていたので来てみました」といった方々の増加にも繋がってきたと思っているところであります。

4年前、私は市民の皆様「元気・安心・希望あふれる三島を創る」とお約束しました。

今、「三つの三島」、「ガーデンシティみしま」、「スマートウエルネスみしま」などの取り組みにより、このような三島が実現しつつあると手応えを実

感しているところであります。

これもひとえに、市議会の皆様をはじめ、市民、自治会、事業者等の皆様のご理解とご協力のたまものと感謝を申し上げますとともに、チーム三島として取り組んだ職員の結束力により、前進できたものと感じている次第であります。

さて、新たに迎える平成26年度ですが、「ガーデンシティみしま」、「スマートウエルネスみしま」の取り組みを更に充実・発展させるとともに、子育て支援、障がい者・高齢者施策、大規模地震に対応した防災対策など、市の重要課題を着実に推進していくためには、市民と地域の絆づくりが極めて重要と考えておりますので、引き続き自治会をはじめとする各種コミュニティ、各種団体等との協働と、市民一人ひとりの意識の醸成に、なお一層努力してまいりたいと考えております。

また、将来の三島の発展を見据える中で、「内陸のフロンティアを拓く取組」、「企業誘致」、「戦略的なシティープロモーション」、「都市計画街路などの都市基盤整備」に積極的に取り組み、三島市の将来都市像「せせらぎと緑と元氣あふれる協働のまち・三島～環境と食を大切に～」の実現を目指してまいります。

現下の社会・経済情勢に目を転じてみますと、我が国経済は、安倍政権が掲げた景気対策、いわゆるアベノミクスの効果により、長く続いた景気低迷からの脱却の兆しが見えてまいりました。

特に輸出関連産業を中心に回復の兆しが見えており、法人決算、個人所得、失業率などにおいても、目に見える形で好転してきております。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催の決定などもあり、様々な分野で活気が戻りつつあると感じており、今後、消費増税の影響など若干の不安要素はあるものの、今、日本は未来へ向けて力強く羽ばたこうとしているように思います。

このような中での、本市の新年度予算編成であります。景気の回復による市税の増収は見込まれるものの、消費税増税による地方交付税や臨時財政対策

債への影響、消費税増税に合わせて実施される社会福祉関連施策や景気対策など、詳細が見えない中での予算編成となりました。

本市の財政状況は、実質公債費比率、将来負担比率など、財政健全化判断比率において健全化基準を大きく下回り、その健全性が示されておりますが、今後は、公共施設の耐震補強事業にかかる借入金^{かりいれ}の償還や、公共施設の長寿命化計画に則った改築・改修の推進、発生が懸念される南海トラフの巨大地震などへ備える防災対策のほか、年々増加する社会福祉関連経費など、多額の財政需要が見込まれることから、財政の健全性を確保しつつ、市民の安全・安心を最優先に様々な課題に着実・的確に対応していくことが求められております。

そこで、本市における平成26年度の歳入・歳出の見込みであります。歳入につきましては、企業収益、個人所得、雇用環境などが回復傾向となっており、歳入の根幹をなす法人市民税、個人市民税などで増収を見込んでおります。

一方、歳出につきましては、少子・高齢化の進行や障害者福祉などの社会保障関係経費をはじめ、子育て支援や教育環境の充実を図るための経費、市民ニーズに的確に対応し、きめ細かな行政サービスを提供するための経費などの財政需要は年々増大してきております。

さらに、平成25年度で終了しました国の重点分野雇用創造事業や、県の子育て理想郷ふじのくに地域モデル事業につきましても、その事業効果に鑑み、内容を精査した結果、多くの事業を継続することとしましたので、今後は、より一層、市民との協働による、最少の経費で最大の効果を発揮できるような事業展開が必要と考えております。

このような背景の下、編成しました平成26年度予算案であります。その基本となる方針を、

- 「市民と協働で進める美しく品格あるガーデンシティの推進と
快適で活力あふれるまちの創造」
- 「健幸日本一を目指すスマートウェルネスの推進と

未来へ繋ぐ教育の向上・文化の充実」

- 「地域の絆で支えるコミュニティ福祉の推進と
さらに安全・安心に暮らせるまちづくり」

と定め、積極的な予算配分を行ったところであります。

以下、この三つの基本方針に沿いまして、主要な事務事業の概要をご説明申し上げます。

まず、「市民と協働で進める美しく品格あるガーデンシティの推進と快適で活力あふれるまちの創造」であります。

ガーデンシティみしまの推進につきましては、引き続き水と緑と文化、そして歴史など、三島の誇れる財産に「花」を加え、これらを磨き上げ、住んでいる人も訪れた人も癒される、美しく品格のあるまちづくりを進め、交流人口・定住人口の増加を図るとともに、観光はもとより農商工業の振興に繋げていく考えであります。

平成26年度は、さらにその進行を図るため「ガーデンシティみしまアクションプラン」に基づき、ガーデンシティみしま推進会を核として、企業、NPO、市民の活動が有機的かつ活発に行えるよう支援する中で、「花と水と緑に包まれた、うるおいのあるまちづくり」を推進してまいります。

5月31日、6月1日には、三島市民文化会館、三島駅前、楽寿園を中心に「全国花のまちづくり三島大会」、「みしま花のまちフェア」が同時開催されますことから、これを機会に、全国に美しく魅力ある「ガーデンシティみしま」を大きく発信してまいります。

さらに、花と緑と水辺環境の回遊性を高めるため、三島駅南口ロータリーと県道三島停車場^{じょう}線の花飾りにつきましても、市民ボランティアの更なる参加を推進するとともに、街中の癒し空間、美しいまち並み^{まちなか}と水辺にふさわしい更に快適な環境を創出するため、親水公園として親しまれている白滝公園を再整

備し、また、三石神社観光トイレ及び水の苑緑地トイレの改修を行なうほか、駅前貴重な緑を街の森として楽寿園につなげ、市民の貴重な財産として保全・活用を図ってまいります。

そのほか、市内全域にわたるガーデンシティの推進につきましては、ガーデンシティ三島推進会や自治会、市民などによる遊休地・休閒地の花壇化や緑化の促進・誘導を図るほか、休耕期の水田や畑におけるレンゲやマリーゴールドの植えつけを推進し、大場幼稚園、坂幼稚園に続き、北幼稚園園庭につきましても、保護者のご協力を頂く中で芝生化を図ってまいります。

また、新たに市民となられる方々へ市民課窓口での「花の種」の配布や、市民の皆様の活動を紹介するガーデンシティ・フォトコンテストを引き続き実施するとともに、みどりまつり、花壇コンクール、緑と花の講習会等の開催などにより、緑化意識と緑化活動の普及啓発に努めてまいります。

次に、街路整備であります。主要地方道三島停車場^{じょう}線の電線類地中化事業に合わせ、歩道の修景整備を行うとともに、引き続き、谷田幸原線建設事業、三島駅北口線建設事業、下土狩文教線建設事業を計画的に推進してまいります。

一般市道の整備では、錦田大場線道路改良事業、県道三島静浦港線に接続する西間門新谷線建設事業などのほか、自治会の要望や市民ニーズを的確に把握する中で、緊急を要する市道整備を優先的に実施し、「三島市道路の構造の技術的基準を定める条例」に基づき、だれもが歩いて楽しい、歩きやすい歩道、いわゆる「歩車共存道」への改善に努めてまいります。

また、老朽化が進む橋梁等につきましては、神川橋落橋防止工事、天神原跨線橋予備設計をはじめ、長寿命化計画に基づく点検・修繕等を実施するほか、県の施工する下御殿橋改修事業を促進してまいります。

次に、公営住宅の整備であります。豊かな住生活の実現に向け、光ヶ丘住宅C棟・D棟の改修工事を実施してまいります。

「内陸のフロンティアを拓く取組」であります。国より「ふじのくに防災減災・地域成長モデル総合特区」の指定を受けている、箱根西麓地区新工業団

地の整備など、5つの事業の実現に向け積極的に取り組んでまいります。

次に、農業基盤整備であります。引き続き県営担い手育成基盤整備事業により中郷地区の農地を整備するとともに、箱根西麓地区においては、県営一般農道整備事業・内陸フロンティアに関連した農道整備や農業基盤の調査を進めるほか、温水池護岸壁の修繕や八反畑、川原ヶ谷などの用排水路改良工事、松毛川農道整備工事等を実施してまいります。

また、農業振興対策では、青年就農事業費補助金、経営体育成支援事業費補助金、農業後継者育成事業費補助金などにより意欲ある農業者の育成を支援するとともに、箱根西麓三島野菜のブランド化と6次産業化、ホームページやPRパンフレット等を活用した情報発信と販売促進活動を支援することにより、農業の活性化を図ってまいります。

商工業振興では、引き続き、ファルマバレープロジェクト関連の富士山麓ビジネスマッチング推進事業や農商エビジネスマッチング事業等を支援し、市内中小企業が自社製品やサービスをPRするための展示会・見本市への出展、商談会へ参加するなどの意欲ある事業者の支援と起業を促進してまいります。

次に、観光振興であります。ガーデンシティの回遊性をはじめ、三嶋大社に代表される歴史と文化、箱根西麓三島野菜やうなぎなどの食、しゃぎりや農兵節などの伝統芸能など、魅力にあふれた三島の財産を、観光資源として積極的に活用して観光交流人口の増加を図ってまいります。

また、「三島夏まつり」はもとより、市内各所で開催されるイベントやそのPR活動に加え「^{まちなか}街中ショートムービーフェスタ」・「イルミネーションイベント」などの新たな取り組みを支援するとともに、県・関係市町との連携による伊豆半島ジオパークの世界認定に向けた取り組み等に加え、観光の活性化とにぎわいづくりを進めてまいります。

さらに、北条氏が築城した歴史的価値の有る日本百名城のひとつ、山中城跡公園^{あと}につきましても、堀と土塁の再整備を引き続き進めるとともに、四季折々の花木^{かほく}が楽しめる癒しの空間づくりにも努め、新たに進出する民間の観光施設と

連携する中で、箱根西麓地域の観光活性化を図ってまいります。

次に、環境の保全及び啓蒙・啓発事業であります。地球温暖化やエネルギー対策など、新エネルギーへの転換は、わが国の重要な課題でありますことから、三島市としましては、一般家庭における太陽光や太陽熱を利用するスマートハウス設備の導入を支援してまいります。

また、災害時の指定避難場所となっております佐野小学校と長伏小学校に太陽光発電設備を設置し、環境教育の充実と避難所となる屋内運動場の電力の確保を図ってまいります。

ごみの減量と資源化対策につきましては、平成24年度に策定した「ごみ処理施設の長寿命化計画」に基づき、引き続きごみ処理施設の大規模改修を実施するとともに、新たな最終処分場候補地の検討を進め、併せてダンボールコンポストの有効性の検証やごみの減量化に向けた、なお一層の啓発に努めてまいります。

2つ目の柱、「健幸日本一を目指すスマートウエルネスの推進と未来へ繋ぐ教育の向上・文化の充実」についてであります。

本市では、健幸をまちづくりの中核に位置付け、市民の主体的な健康維持・社会参加活動を通じて、^つ少子高齢社会にあっても持続可能な都市づくりを進めているところであります。

その一環としまして、健康づくりや社会参加の取り組みにポイントを付与する「健幸マイレージ事業」をさらに充実・強化し、誰もが運動やスポーツを楽しむことができる場と機会の提供、科学的根拠に基づいた健康運動教室の開催や各種ウォーキングイベントの情報提供に努めてまいります。

さらには、市民や学生との協働で企画・開発した、スマートフォンに健康マイレージポイント機能を追加した、まち歩きアプリ「みしまあるく」の普及、ウォーキングのまち三島の魅力を発信するPR紙の作成等により、更なるウォーキングの普及による健康づくりを推進してまいります。

次に、食育推進事業であります。

平成24年度に策定した「第2次三島市食育基本計画」に基づき、産・官・学・民連携による食育先進都市を目指しているところですが、平成26年度は大人の食育にも視点を広げる中で、健康な体・豊かな心・食の安全安心・食文化・環境をテーマに、三島市独自の取り組みを推進してまいります。

また、箱根西麓三島野菜を中心とした特産品のPRと生産者の意識向上を図る「食健シンポジウム」、食育と食の街みしまを全国にPRし街中の^{まちなか}にぎわいと地場産業の活性化に繋げる「三島フードフェスティバル」の開催を支援することなどにより、おいしい食と食育に関連する事業の更なる推進を図ってまいります。

一方、周産期医療体制の確保では、安心して市内で子どもを産み育てることができるよう、三島社会保険病院の周産期医療施設建設を支援してまいります。

また、スポーツイベントや合宿、健康づくり大会等の誘致によるスポーツ関連産業の振興と地域経済の活性化に繋げる東部スポーツ産業研究会の取り組みを支援してまいります。

次に、教育・文化の充実であります。老朽化した佐野小学校プールの改修事業のほか、各小・中学校の快適な環境づくりとして、トイレ改修事業や理科室等の特別教室へ扇風機の設置などを推進するとともに、北中学校南校舎の改築に向けた調査を進めてまいります。

また、新たに学力向上を担当する指導主事を配置し、学力向上に向けた様々な取り組みも積極的に進めるとともに、学校・家庭・地域が一体となり地域ぐるみで子どもを育むための学校支援地域本部事業や、児童・生徒一人ひとりに目の行き届いたきめ細かな教育・指導のための学校支援員配置事業と通級指導教室支援員配置事業、理科教育支援員配置事業などのほか、学校・家庭・地域が連携した、いじめ・不登校への対応を図ってまいります。

次に、文化振興であります。平成26年度に制定を目指しております、(仮称)「三島市文化振興基本条例」に基づく芸術・芸能・伝統文化などの振興計画

の策定に着手するほか、市民文化会館を安全に使用できるように、ホール天井脱落防止に向けた天井耐震診断と、老朽化した施設・設備の計画的な改修工事を実施してまいります。

3つ目の柱、「地域の絆で支えるコミュニティ福祉の推進とさらに安全・安心に暮らせるまちづくり」であります。

子育て支援の推進では、平成25年度に実施したアンケート調査や子ども・子育て会議の意見を踏まえ、子ども・子育て支援策の総合的な計画「三島市子ども・子育て支援事業計画」を策定するとともに、平成27年度からの子ども・子育て支援新制度の本格施行に向け、幼保一元化窓口への移行、システムの構築等を進め、合わせて保護者や市民への広報・啓発を行ってまいります。

また、子育ての様々な相談に対応するため、引き続き子育てコンシェルジュ事業を継続し、平成25年度で終了した、県の「子育て理想郷ふじのくに地域モデル事業」により実施してまいりました、子どもの誕生を地域全体でお祝いする「子どもは地域の宝事業」などを三島市の単独事業として継続するほか、地域で子育てに取り組む団体等の活動を支援してまいります。

さらに、新たに創設された「子育て世帯臨時特例給付金給付事業」や希望児童数の増加が著しい北小学校放課後児童クラブに第二クラブを整備するほか、子育てママを応援するためのホームページを活用した保育情報の充実、子ども医療費支給事業、未熟児養育医療費支給事業、病児・病後児保育などの特別保育事業、また、待機児童の解消や一人親家庭の負担を軽減するために延長保育を実施する民間保育園を支援するなど、保護者の負担軽減と、子育てがしやすい環境づくりに努めてまいります。

次に、療育支援相談事業ではありますが、発達に関して配慮が必要な子どもと保護者への支援体制の構築を目指し、言語聴覚士や作業療法士等による専門相談の回数を増やし、臨床心理士、保健師、保育士等が連携した各種教室の開催、専門相談の実施など、きめ細かな支援に努めてまいります。

次に、障がい児者への支援につきましては、平成27年度から平成29年度までを計画期間とする「第4期障害福祉計画」を策定するとともに、生活介護事業所「みしまさくら」と就労継続支援A型事業所「手作り工房・イルカ」の施設整備を支援するほか、障がい者就労支援事業をはじめ、地域生活支援事業、各種在宅支援事業や各種手当・給付金給付事業など、障がいを持っている方の自立と社会参加を支援してまいります。

次に、高齢者生きがい対策事業であります。老人福祉法及び介護保険法に基づき、平成27年度から平成29年度までを計画期間とする「第7次高齢者保健福祉計画」及び「第6期介護保険事業計画」を策定するとともに、平成26年度の完成を目指して養護老人ホーム佐野楽寿寮の大規模改修事業を実施するほか、(仮称)「特別養護老人ホーム南二日町」の施設整備を支援してまいります。

次に、地震防災対策事業であります。

引き続き三島市地域防災計画等に基づく危機管理体制に万全を期するとともに、自主防災組織の充実強化を進め、市民の生命・身体・財産を守るよう最大限の努力をして参ります。

一方、郷土資料館の耐震補強の完了により市内公共施設の耐震補強事業は全て完了しましたが、今後は、民間住宅の耐震化が重要な課題となります。

このため、木造住宅耐震補強助成事業費補助金や、リフォームに合わせて住宅の耐久性、安全性を高める住宅リフォーム事業費補助金、住宅の耐震化が困難な65歳以上の世帯向けの耐震シェルター整備事業費補助金などにより、民間住宅の耐震化率の向上を図ってまいります。

また、大規模地震発生時等、急傾斜地の崩壊を未然に防ぐため、急傾斜地崩壊防止対策事業の推進を図ってまいります。

次に、消防防災対策事業であります。

現在、通信指令業務の共同運用と消防無線のデジタル化に対応するため、三島市、裾野市及び長泉町の2市1町の共同により、消防通信指令センターの建

設を行なっておりますが、平成26年度は平成27年12月の運用開始を目指し、消防通信指令システムの整備に合わせて消防救急デジタル無線機の整備を進めてまいります。

また、救急医療事業につきましては、二次保健医療圏における救急医療の充実を図るため、新たに広域救急医療情報システム運営事業やドクターバンク事業を推進し、交通安全対策につきましては、交通安全教育やカーブミラーの整備、また、近年増加している高齢ドライバーによる交通事故の防止を図るため、高齢者運転免許返納支援事業の推進など、交通事故の撲滅に努めてまいります。

以上、三つの基本方針に従いまして概要を説明させていただきましたが、そのほかに、地域自らが課題解決に向けたご近所力を高めるための地域づくりを進める市民会議事業や、地域の主体的な活動を支援しコミュニティ組織の活性化を図る地域づくり会議運営費補助金など、地域全体で進める防災対策、子育て支援、高齢者などへのサポートを応援するほか、事業者をはじめとする各種市民団体の創意と工夫にあふれるまちづくり活動を支援してまいります。

また、地域戦略事業では、内陸フロンティア関連事業へ積極的に取り組むとともに、市民の生き生きとした活動や三島の魅力を効果的に発信するためのPRテレビ番組の制作と放映、マスコットキャラクターの更なる活用による戦略的・効果的な情報発信などを行なっております。

さらに、行政経営戦略会議では、三島市の強みや特性を生かした戦略的なまちづくり活動のきっかけづくりとその啓発を行ってまいります。

そのほか、新たに三島ファンネット推進事業に取り組み、三島の魅力を満載した旬の情報をタイムリーに全国へお届けすることにより三島市のファンを増加させ、観光客をはじめとする交流人口と定住人口の増加に繋げてまいります。

また、景気の回復等により所得環境は改善傾向にあると言われるものの、地方におきましては依然厳しい雇用環境が続いていることから、平成25年度で

終了した重点分野雇用創造事業に替え、国の起業支援型地域雇用創造事業、地域人づくり事業を活用する中で、積極的な雇用対策に努めてまいります。

以上、三島市が未来に向けて力強く躍進するため、また、誇れる三島を次世代に引き継ぐため、自然と歴史、文化に裏付けられた三島の魅力を皆様とともに磨きあげ、発信し、「市民もまちも産業も元気で健幸なまちづくり」を進めてまいりたいと考えております。

このような考えのもと、新たな施策をきめ細かく平成26年度予算に盛り込んだところでありますが、私はこの予算を「元気・安心・希望あふれる三島を創造する積極型予算」と考えております。

それでは、予算規模について申し上げます。

まず、一般会計の総額は358億円で、前年度当初予算額に比べ、19億2,900万円、5.7パーセントの増となっております。

また、国民健康保険特別会計など、八つの特別会計の予算額261億8,903万2千円を合わせた予算総額は619億8,903万2千円となり、前年度に比べ23億4,404万6千円、3.9パーセントの増となっております。

以下、先の三つの基本方針に加えて、「第4次三島市総合計画」に定めるまちづくりの大綱に沿いまして、一般会計予算案の概要を説明させていただきます。

まず、第1の基本目標「安全・安心に暮らせるまち」であります。

はじめに「健康・福祉を育むまちづくり」についてであります。

地域が支える福祉活動の推進では、「三島市地域福祉計画」の理念に基づき、三島市社会福祉協議会や民生委員をはじめとした福祉団体の支援と連携を密に図り、住民相互の助け合いとボランティア活動の輪を広げ、誰もが住み慣れ

た地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるとともに、新たな福祉計画策定のため、懇話会の開催や市民アンケート調査を行い、多様化する福祉ニーズの把握に努めてまいります。

安心できる医療体制の確保であります。休日、夜間におきましても、必要とする診療科目で質の高い医療サービスを受けることができる救急医療体制を、三島市医師会メディカルセンターの協力と広域の医師会で組織する在宅輪番制度の維持により図ってまいります。

次に、生涯^{とお}を通した健康づくりの推進であります。

たのしいまち歩きを体力の増進に繋げるため、ウォーキングコースの整備を推進するほか、新たに成人の希望者を対象とした風しんワクチンの接種や、歯周病検診の対象年齢を拡大し制度の充実を図るとともに、増え続ける糖尿病の予防対策に積極的に取り組み、「スマートウエルネスみしま」の更なる浸透を図ってまいります。

健全な心身を育む食育活動の推進につきましては、新たに大人の食育教室、ヘルシーメニューコンテストなど「大人の食育プロジェクト」の強化を図るほか、本年11月24日には、第2回全国コロッケフェスティバルを三島フードフェスティバルに合わせて開催し、食と食育先進都市みしまを全国に発信してまいります。

次に、子どもを産み育てやすい環境の整備であります。

働く女性の増加による保育ニーズの多様化に應えるため、男性の育児休暇の取得を支援するほか、地域における子育て支援の中核を担う地域子育て支援センターの拡充をサポートしてまいります。

高齢者の生きがいと自立の支援であります。多くの高齢者が気軽に悩み事などを相談できる「高齢者暮らし相談室」の開館時間を延長するとともに、新たに土曜日、日曜日を開館日とするなど、更なる生活サポートの充実を図るほか、三島市の実情に即した分析を行う中で「高齢者保健福祉計画」を策定し、長い間社会に貢献されてこられた方々が、住み慣れた地域で安心して生き生き

と暮らせるまちを目指してまいります。

障害のある人を支える環境の充実につきましては、新たに「障がい者応援大使」を設置し、障がいを持つ人も持たない人もお互いが理解を深め、地域にとけ込んだ暮らしができる体制づくりに努めるほか、障害福祉サービスの受給者全員に計画相談を実施し、障がいを持っている方の自立に向けたきめ細かなケアマネジメントを支援してまいります。

また、生活保護につきましては、^{くに}国・^{けん}県の指導に沿い、適切な保護に努めるとともに、新たな就労自立給付金制度により、自立した生活をサポートしてまいります。

次に、「安全な暮らしを確保するまちづくり」であります。

危機管理体制と地震・水害対策の強化につきましては、大規模災害発生時に備え、食料・物資等の供給協定を締結した民間事業者と更なる連携体制の強化を図るとともに、自主防災組織のリーダーとなる防災士の育成を図り、市民の防災に対する個人力と組織全体の防災力の向上に繋げてまいります。

また、自衛隊と連携し、全国統一化された「UTM座標」を活用した防災訓練を実施するとともに、避難所運営基本マニュアル、防災資機材の整備を進め、迅速に避難所の開設ができるよう体制を整えてまいります。

さらに、業務継続計画・BCPでは、発災時に優先する緊急業務と通常業務の徹底を図るとともに、避難行動要支援者へのサポート体制の強化を図るほか、防災マップの見直しを自主防災組織と協働で行い、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

消防・救急体制の強化につきましては、多様化する災害に対応する消防装備品や高度救急救命用資機材の充実を図るとともに、コンビニエンスストアなどのご協力をいただき市内各所にAEDの設置を進めてまいりましたが、一人でも多くの市民が取り扱いできるように操作方法の普及啓発に努め、緊急時に備えた体制の強化を図ってまいります。

次に、交通安全の推進であります。

昨年(2019年)の12月26日に三島警察署管内の本市の死亡事故ゼロが468日で途絶えてしまい大変残念に思っているところではありますが、高齢者や自転車が関連する事故が増加傾向にあるため、年齢層に応じた交通ルールとマナー向上を図る交通安全教育を推進し、交通事故の抑制に努めてまいります。

犯罪防止活動の推進につきましては、市内の刑法犯認知件数は、ここ15年間減少しておりますが、さらに安全でいつも安心して住めるまちを目指し、小学校、幼稚園、保育園における防犯教室の充実を図るほか、高齢者が詐欺などの犯罪に巻き込まれないよう、広報みしまや同報無線等を利用して注意喚起に努めるなど、市民一人ひとりの防犯意識の高揚を図ってまいります。

第2の基本目標は「活力のある住みやすいまち」であります。

まず、「活力ある産業が発達したまちづくり」についてであります。にぎわいある商業・商店街の振興では、「ガーデンシティみしま」の推進により、洗練された大通り商店街と今後修景整備の進む芝町通りの景観に合わせた個店の改修、商店街の連続性を保持する空き店舗の解消を支援するほか、各商店街が自主的に開催する様々なイベントをサポートすることにより、更なるにぎわいの創出を目指してまいります。

魅力ある観光の推進につきましては、ガーデンシティによるせせらぎルートの回遊性を高めるとともに、スポーツと観光を融合させたスマートウエルネス観光戦略などを積極的に展開してまいります。

また、「おいしいまち味島」の情報を広くPRする飲食店マップを製作するほか、首都圏、中部圏の旅行業者、マスコミ等を三島に招き体験型の見学会を開催するなど、一人でも多くの方が三島を訪れてくださるよう、おもてなしの心で観光施策を展開してまいります。

次に、地域の特性を生かした農業の振興であります。新たな担い手として期待される企業の農業参入や、やる気にあふれる新規就農者を支援するとともに、減農薬・有機肥料による環境保全型農業の促進を図るほか、農地利用の効

率化・高度化を推進する「農地情報管理システム」の整備に取り組んでまいります。

活力ある工業の振興と新産業の創出では、新たな事業者の起業支援や経営相談を金融機関・専門家等と連携して行う制度の構築を支援するほか、経営革新計画により実施する新サービスの提供や新商品の開発を支援するなど、意欲ある事業者のサポートに努めてまいります。

企業誘致の推進についてであります。東名高速道路、新東名、東駿河湾環状道路、伊豆中央道が連結し、三島市への交通アクセスがさらに向上することから、ファルマバレープロジェクト関連の企業誘致を積極的に推進してまいります。

次に、「都市機能の整ったまちづくり」であります。

快適な市街地の形成では、芝町通りの本町交差点から三島商工会議所までの区間において、歩道の修景整備とグレードの高い街路灯の設置を進め、「ガーデンシティみしま」にふさわしい街並みの創造に努めてまいります。

また、「三島駅周辺グランドデザイン」を踏まえ、関係者と連携・協議をすすめる中で、実現性の高い三島駅南口市街地再開発事業のスキームを検討してまいります。

安全で円滑な道路網の整備につきましては、去る2月11日に東駿河湾環状道路と伊豆中央道が接続され、環状道路に関連する谷田幸原線などの都市計画道路の整備は、沿道のまちづくりを行う上で、さらに重要な役割を担うことから、早期完成を目指し計画的な整備を進めてまいります。

また、市民の日常生活において密接な関わりをもつ一般市道につきましても、錦田大場線などの主要幹線と調整を図りながら、効率的、効果的な整備に努めてまいります。

なお、国道1号のバイパス的な役割を担い、広域生活圏の利便性を向上させる西間門新谷線につきましては、平成26年度に県道三島静浦港線までの供用開始を目指し、事業を進めてまいります。

次に、利用しやすい公共交通の充実では、公共交通の空白地域の解消と公共施設、商業施設などへのアクセス向上を図る自主運行バス、循環バスの運行コースの見直しやダイヤ改正を地域と連携を図る中で検討し、より多くの方が利用しやすい運行に努めてまいります。

良質な住環境の形成につきましては、日の出町住宅や柳郷地住宅を計画的に改修し、入居者の安全と快適な居住環境の確保に努めてまいります。

美しい景観の保全と形成についてであります。富士山の世界文化遺産登録により、三島市からの眺望が全国的に高い関心を集めておりますので、新たな富士山眺望地点の指定などを進め、より一層、素晴らしい景観の保全と創出に努めてまいります。

第3の基本目標は「環境を保全し人と文化を育むまち」であります。

まず、「環境を保全し継承するまちづくり」についてであります。地球温暖化防止活動の推進では、新たに「環境ボランティア養成講座」を開催し、率先して環境活動を行っていただける人材の確保に努め、市民力を最大限に活かす「ボトムアップと協働による環境活動プロジェクト」の推進を図るとともに、家庭でできる環境活動として、緑のカーテンの普及やエコパートナーの促進などに取り組んでまいります。

また、一般家庭への省エネ施設の導入につきましては、これまでの太陽光発電システムに加え、新たに蓄電池、燃料電池などの設置を支援し、スマートハウス化を促進してまいります。

循環型社会の形成につきましては、資源ごみ回収団体へのミックス古紙と食用廃油の報償金を増額し、リサイクル意識の向上と廃棄物処理施設の負担軽減に努めてまいります。

健全な森林・水^{みず}資源の保全であります。荒廃した森林や放置竹林は、良質な水を育む水源涵養機能と集中豪雨による水害を防ぐ防災機能への悪影響が危惧されますことから、三島フォレストクラブをはじめとする森林ボランティ

アとの協働により、良好な森林整備と里山の再生に努めてまいります。

緑と水辺空間の保全と創出につきましては、楽寿園をはじめとする三島の湧水を活用した親水公園の整備を進めるとともに、地域花壇づくりや緑化イベント・花木^{かぼく}育成講習会等の支援に努め、「ガーデンシティみしま」にふさわしい庭園都市の創造を推進してまいります。

次に、「学びと文化を育むまちづくり」であります。

豊かな人間性と確かな学力の向上につきましては、三島市独自で行う環境教育やキャリア教育、食育・防災教育による豊かな感性の育成と命の大切さの理解を一層高めていくとともに、教職員の授業力の向上を図るほか、小学校英語教育指導助手の増員などにより、「学ぶ力」の具現化をサポートしてまいります。

青少年健全育成の推進であります。子どもたちに夢を与える「少年少女発明クラブ」の更なる充実を図るとともに、青年対象講座の開催や様々な交流体験、社会貢献活動への参加を促進し、将来の三島を担う三島を愛するリーダーの育成に努めてまいります。

生きがいとなる生涯学習の推進につきましては、近年、市民の求める学習ニーズは、余暇を利用した趣味的な学習から、資格取得や生活の向上といった実利的な学習まで多岐に亘っておりますことから、新たな「生涯学習プラン」の策定を進める中で、各種講座の充実を図ってまいります。

図書館の充実では、従来求められていました文化教養書籍に加え、医療情報誌、就職・起業に関するビジネス書、子育て関連書籍など、生活に役立つ書籍等の充実努めてまいります。

次に、誰もが楽しめる生涯スポーツの推進であります。

市民のスポーツ活動に対する強い要望に応えるため、長伏グラウンドや市民温水プールなど、既存施設の適正な管理に努め、快適な利用と安全確保を図るとともに、新たな運動公園の可能性につきましても調査してまいります。

また、知育玩具「オーボール」の提供により、幼児期から遊び^{とお}を通して親子

でスポーツに親しむ機会をサポートするほか、三島市体育協会やスポーツ関係団体連合会等と連携を一層深め、生涯スポーツと競技スポーツ及び障がい者スポーツの調和のとれた環境づくりに取り組んでまいります。

さらに、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、三島市民の夢でもあります、三島市出身の選手の輩出を目指し、トップアスリートの発掘・育成を支援してまいります。

多様な文化・芸術活動の推進につきましては、静岡県舞台芸術センターの出張公演を開催するほか、市民美術展、市民合唱祭など文化・芸術の発表の場と鑑賞の機会を提供し、心の豊かさや潤いある生活の創出に努めてまいります。

郷土資源の継承と文化財の保全につきましては、リニューアルされた郷土資料館の各種講座・企画展の充実を図り、郷土愛を育くんでまいります。

多文化共生と国際交流活動の推進につきましては、ニュープリマス市からフランス・ダグラス校訪問団を受入れるほか、新たに麗水市へ教師を派遣し、国際理解教育の充実を図ってまいります。

平和都市活動の推進につきましては、平和の尊さを再確認し、悲惨な戦争が再び起こらないことを心から願い、市民の意識を高める啓発活動や中学生の広島市平和祈念式典への派遣を実施してまいります。

第4の基本目標は「協働で進める自立したまち」であります。

まず、連帯感のあるコミュニティの形成につきましては、防災・防犯・高齢者施策・青少年の健全育成などの課題の解決には、地域の住民相互のふれあいと助け合いが重要となりますので、小学校区単位で行う「きずなづくりトーク」の充実を図るとともに、地域で活動する様々な団体の仲介役を担う「地域づくりコーディネーター」の養成を支援してまいります。

また、地域における絆づくりの拠点となる地区集会所の整備や、コミュニティカフェなど新たな自治会活動を支援するほか、小学校区ごとのコミュニティ協議会の設置を促進してまいります。

市民主体のまちづくりの推進では、市民団体などが自主的に企画立案する新たなまちづくり活動を支援するほか、ボランティア活動の輪を広げ、市民、NPO、事業者及び行政がそれぞれ役割を分かち合い、誇りと愛着のもてるまちづくりを協働で進めてまいります。

また、本市のマスコットキャラクター「みしまるくん・みしまるこちゃん」の知名度は着実に向上し、多くの皆様から親しまれてまいりましたので、今後は関係団体等との更なる連携を図り、経済効果に繋がる活用と活動を展開してまいります。

的確な広報・広聴活動の推進につきましては、見やすくわかりやすい「広報みしま」の紙面づくりに心がけ、利便性の高い情報提供に努めるほか、新たな取り組みといたしまして、ユーストリームを活用した三島の魅力あふれる情報を市内外の多くの方々へリアルタイムに届けるなど、「住んでよし、訪れてよし」と感じていただけるシティープロモーションを積極的に展開してまいります。

さらに、様々なマスメディアを通じて、ガーデンシティ、スマートウエルネスなどの三島市の魅力溢れる施策と、湧水をはじめとする貴重な資源を活かした観光施設等の情報を発信することは、市民の誇りと郷土愛の高揚とともに、交流人口の拡大や定住人口の増加、企業立地の推進などに繋がる大変有効な手段でありますので、戦略的に取り組んでまいります。

以上、「第4次三島市総合計画」に定める施策の大綱に基づき、一般会計予算案の大要を申し上げました。

次は、特別会計であります。

まず、国民健康保険特別会計であります。医療の高度化や被保険者の高齢化などによる構造的な要因に加え、昨年^{つう}の社会保障制度改革国民会議の最終報告で示された、運営主体の移管や医療費自己負

担の見直しなど、様々な制度改革が見込まれており、国民健康保険財政を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にあります。

そのため、本市の目指す「スマートウエルネスみしま」構想による生活習慣病予防対策や、新たに特定健診の受診率向上を図る受診勧奨通知などにより、健康増進を図るとともに医療費の抑制に努めてまいります。

次に、介護保険特別会計であります。

高齢者になっても、元気で生きがいを持ち暮らせるよう、健康づくりや介護予防施策を重点的に進め、要介護認定者の増加抑制と介護保険財政の負担軽減を図るとともに、介護・支援が必要な状態になっても、住み慣れた三島で安心して日常生活を送ることができるよう、引き続き生活支援の各サービスが切れ目なく提供される地域包括ケア体制の構築を進めてまいります。

また、地域住民の絆により支えあう「認知症サポーター」、「地域安心サポーター」の育成にも努めてまいります。

次に、墓園事業特別会計であります。

墓参に訪れる方々に気持ちよくご利用いただける環境整備に努めるとともに、少子高齢化や核家族化への対応と限られた墓園用地の有効活用を図るため、納骨堂整備の可能性について調査を進めてまいります。

次に、下水道事業特別会計であります。

本市の下水道普及率は、静岡市、浜松市に次いで県下第3位となっておりますが、一人でも多くの方に公共下水道を使用していただけるよう、引き続き計画的な整備に努めてまいります。

また、下水道事業の経営状況をより明らかに示すため、地方公営企業法の適用に向けた取り組みを進めてまいります。

最後に、水道事業会計であります。

どこのまちよりもおいしい安全な水道水の、将来にわたる安定供給を目指し、新たな「三島市水道ビジョン」に沿った施設の整備と適切な維持管理に努めてまいります。

以上、平成26年度の一般会計、特別会計の予算案につきまして、方針及び大要を申し上げます。

さて、平成22年12月に多くの皆様の支えにより、市長に就任してから早くも3年余が経過いたしました。

この間、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生や日本全体の厳しい社会経済情勢が続く中、議員各位並びに市民の皆さま方と手を携え、職員と一丸となって三島市総合計画の実現、また、市民の皆様にお約束した施策の推進はもとより、三島市の様々な課題に立ち向かい、将来の発展に向け多くの施策を展開してまいりました。

今後も皆様との対話を大切にしながら、まちづくりに対する声を真摯に受け止め、すべての市民の皆さまと心を通わせ^{かよ}支えあう「絆とぬくもり」により、「三島で生まれて良かった、三島で育って良かった、三島で暮らして良かった」とさらに幸せを実感していただけるまちの創造に取り組んでまいりたいと考えております。

また、これまでの取り組みを礎として、三島市が大きく飛躍し、県東部都市のリーダーとして魅力と輝きを放つとともに、市民の皆さまに自信と誇り、そして夢と希望を持ち続けていただけるよう、これからも全力で走り続ける覚悟で市政に邁進してまいります。

以上、所信の一端を申し述べましたが、平成26年度三島市当初予算案につきましては、これまで築きあげてきた、元気・安心・希望あふれるまちづくりをさらに加速させ、各事務事業に取り組んでまいりますので、今後とも一層の

ご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

よろしくご審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。